

提 言

# 重い知的障がいがあっても、一人暮らしをしています。福祉の専門家だけではなく、地域の支え合いの中で。

重度の知的障がいがあったら一人暮らしは無理だと思いませんか？  
保護者や支援者の皆さんがそう思ってしまいませんか？  
自宅か施設で暮らすしかないのでしょうか？  
「もうひとつ」の暮らしの場があるはず。  
4人の重い障がいの方がグループホーム（GH）の暮らしから、アパートでの一人暮らしに移っています。

## 生まれ育った町で暮らし続けたい

GH「御井あんだんて」の近所で、4人は一人暮らしをしています。そのGHに住んでいた時、「やれるやろ」と決意した上田智也さん（26歳）を皮切りに始まったチャレンジです。その思いは、生まれ育った御井町で働き、暮らし続けたい。彼らの原点は、重い障がいがあっても地域の保育園、小学校、中学校へ通ったことにあります。

4人は、小学校高学年の時から月に1回、当法人のショートスティ事業を使っての「体験宿泊」、高校3年の時は当法人のレスパイトハウス事業を使って、長期計画のものの宿泊体験にチャレンジしました。

2010年4月、「御井あんだんて」開所の際、特別支援学校高等部を卒業した4人は18歳で親元から離れて入居。同時に就労訓練、就職をし、サテライト型住居への入居を経て、ついに一人暮らしに踏み出したのです。保護者も支援者も、もちろん本人も精一杯、駆け抜けた年月だったように思います。

## 支援や保護ではなく、自立を。

「GHとアパート、どちらがいい？」と聞くと、「アパートがいい」の返事にほっとします。幼い時からチャレンジを繰り返してきた彼らです。周りの心配をよそに行きつ戻りつしながらも、暮らしの様々な点を自分で決定することで自信をつけ、希望をもって自分らしく当たり前暮らしをおられます。

そして、支援、保護されている側だと思っていた彼らが、障がい児とその家族にとって、「うちの子も将来は彼らのように一般就労して収入を得て、一人暮らしをして自立できる」という希望になっているのです。その姿を見るにつけ、重い知的障がいならば一人暮らしは無理と、これまでの常識にとらわれているのは、傍にいる家族や支援者なのだ気づかされました。障がい者も高齢者も若者も、誰でもいろんな暮らし方があるはず。今後も常識にとらわれずに一緒にチャレンジしながら、利用者さんの生活の選択肢を増やしていきたいと思ひます。

※1… 3名はサテライト型住居・1名は一人暮らし  
※2… GHの近くのアパートを借り、一人暮らしに近い生活の支援をする



私たちと一緒に、「自立」を考えてみませんか？

アパートの1室（1ルーム）を借り、できることは自分で行き、徒歩通勤かバス通勤で職場へ。自分で朝食を用意する人、GHにて食べる人、とそれぞれです。

### ……保護者の声です……

私が入院した時も、生活のリズムを作っていたいただいたお陰で本人は仕事も頑張っていました。皆さんに助けられて楽しく生活しています。（上田さん）

一人暮らしの練習を始め不安で泊れない日が続きましたが、皆さんの支えで安心したのか変化が、諦めず支えていただき、感謝の気持ち一杯です。（西村さん）

不安や心配でたまらない事もありますが、息子の姿に元気をもらっています。これからも息子の応援団であり続けたい。（豊福さん）

一人暮らしも3年目。初めの頃の不安はどこへやら、気力、体力続く限りに冒険し、大きくなりました。可能性を拓いてくださって有難うございます。（友成さん）



### GH「御井あんだんて」

入居者5名・一人暮らし4名。地域の皆さんが集まる場となっており、年間延べ600人以上が足を運ぶ。独自の催しとして、そうめん流しやお月見会などを実施し、地域の行事にも出店している。